

ドラマティック日本史第5弾

“日本の始まりを探る 2 “古代神社のミステリー”

講師：林 和清 先生

日時：5月4日（月）



神社を探ると古代がよくわかり、神社こそが古代と現代をつなぐタイムカプセルである。

1. 神社の起源

外来宗教の影響を受ける以前即ち仏教伝来前に存在していたとされる宗教を古神道、原始神道、神祇神道という。古神道は太古の昔から自然発生的に生まれ、自然崇拝・精霊崇拝などのアニミズム、命・御魂・霊・神などの人間の知恵を越えたマナの概念、禁足地や神域の存在、祈禱・占いなどのシャーマニズムによる祈願概念、国や人の創生の神話の発生が挙げられ民俗学で提唱された。

●依代(よりしろ)

日本の古神道の根底にはあらゆる物に神・精霊や魂などのマナが宿ると考え、神が宿る場所を依代という。

●神籠(ひもろぎ)

古来、神が自然の山や岩、木、海などに宿ると信じて信仰の対象とし、巨木の周囲に玉垣を巡らして注連縄で囲うことで神聖を保ち、古くはその場所を神籠(ひもろぎ)と呼んだ。

●御神体

高千穂峡天安河原(洞窟の中に鳥居建立)、葦嶽山(ピラミッド型の山)、宗像大社沖ノ島(島全体が御神体、世界遺産、女人禁制)、熊野那智の滝(日本一の落差)

●神代からある神社

伊弉諾神宮(兵庫県淡路市)、多賀大社(滋賀県犬上郡)、須佐神社(島根県出雲市)等

2. 三輪大社

日本最古と言われ、三輪山を神体山として扱う事から神官、僧侶以外は三つ鳥居から辺津磐座までは禁足。ただし飲食、喫煙、写真撮影等の規則を遵守すれば入山参拝可能。近辺に纏向遺跡、箸墓古墳(日本最古の前方後円墳)がある。第10代崇神天皇が葛城山系から纏向に都を移し応神天皇まで四代にわたり都とした。

●三輪大社の歴史

崇神天皇5年から疫病がはやり、天皇に大物主神が夢懸かりして現れ、神託に従って出雲より大田田根子と呼ばれ戻し祭祀主として大物主神を祀らせると国内が鎮まった。

3. 縄文神社

縄文遺跡に神社が重なっている場所のこと。縄文時代に人口密度が高かった関東地方に多く首都圏だけでも100社以上が縄文神社の条件に合致している。

●二宮神社(東京都あきる野市)

武蔵国多摩郡小川郷の鎮守であり、天慶の乱に際し戦勝悲願を込め造営された。縄文由来の石神を祀り、縄文土器や土偶が出土されており、アラハバキ神を祀る荒波々伎神社がある。

●氷川神社(埼玉県さいたま市)

武蔵国一宮にあり宮中の四方拝で遙拝される。縄文土器の遮光器土偶が出土され、水の神社と言われる程湧水があり、アラハバキが客人神として祀られている。

●弥彦神社(新潟県西蒲原郡弥彦村)

「伊夜比古神」として崇敬され、大神は神武天皇即位の大典の際に神歌楽を奉奏した。



4. 琉球神道

琉球王国を中心に信仰されてきた多神教信仰であり、固有の経典や具体的教義、開祖を欠いており、神話、自然崇拜のアニミズム的かつ祖霊崇拜的な宗教である。

●斎場御嶽(せーふぁーうたき)

沖縄県南城市知念にあり、「せーふぁー」は最高位を表し「斎場御嶽」は「最高の御嶽」の意味である。三つの拝所がある「三庫理」には「チョウノハナ(京の華)」という最も格の高い拝所があり琉球の創世神であるアマミキヨが降臨するとされ久高島を遥拝することができる。

●久高島

沖縄本島東南端に位置する知念岬の東海上にあり、周囲 8km のサンゴ礁で出来ている細長い島。日本神道に例えると天照大神に当たる琉球の創生神アマミキヨが天からこの島に降臨し、国造りを始めたという琉球神話聖地の島である。クボー御嶽は久高島第一の聖地であり男子禁制である。神女組織「祝女(ノロ)」制度を継承し 12 年に一度行われる秘祭イザイホーを頂点とした祭事を行う等女性を守護神とする母性原理の精神文化を伝えており民俗学的に重要な島である。かつて風葬が行われ地元の方言による葬送歌もある。

5. 沖縄の海底に沈んでいる古代の遺跡

●与邦国島海底地形

八重山諸島の与邦国島南部の新川端沖の海底で地元のダイバーによって発見された巨大神殿のような階段構造の地形。自然地形説、人工的構造物説やかつて古代文明がこの地に存在した説などがある。

●ニライカナイ

「ニライ」、「カナイ」の 2 文節にわけられ、「ニライ」は「根の方」という意味と考える説が有力である。遥か遠い東の海の彼方、または海の底、地の底にあるとされる異界で理想郷と言われており、創生神アマミキヨもこの理想郷から来たとされている。

(記事：広報担当 古川洋之)